

社会奉仕プロジェクトの一環として、8月19日～20日、月島第二小学校生徒12名、校長先生を含む保護者6名、自分も含め当クラブ会員5名が参加し、山梨県北杜市長坂の社会福祉法人「緑の風」（理事長：当クラブの武田会員）の施設に於いて農園芸体験プロジェクトを実施した。

同施設は、知的障害者の自立を支援する目的で設立された施設で、その利用者（知的障害者）がパン、クッキー等を製造販売するほか、農作業にも従事している。

同校とは、長年に亘って様々なプロジェクトを実施し緊密な関係を築いて来たが、本プロジェクトは、先般同校との会合の中で、当方より、生徒に「土」に触れる機会を与えたい、又障害のある方々に接し「障害」の意味を感じて頂きたいとの趣旨から提案させて頂き、ご賛同を得たものである。

プログラムの内容を以下の通りご報告させて頂きたい。

第一日目は、施設に到着した後、先ず施設センター長から「障害」に付いて一同説明を受けた。スタッフと利用者の指導の下、草刈、ジャガイモの収穫作業を行なった。次にスイカ畑で熟れ具合を判定する指導を受けた。子供達は棒、鎌を使って土まみれになり、汗をかきながらの作業でしたが、利用者とはごく自然に接し楽しそうであった。夕食は地元産野菜料理、バーベキュー等を楽しみ、その後の花火大会で締めくくった。

第二日目は、朝一番苗の植え替え作業を行なった。一人30ポットはこなしたが、この苗は10月には花が咲き、学校に送られる事になっている。次にトウモロコシ畑での収穫作業となった。昼食は利用者と一緒の昨日収穫のジャガイモ入りカレーライスを食べた。一人一人利用者と握手を交わして別れを告げ、施設を後にした。

子供達全員が「またこの様な体験をしに来たい」と言った言葉に感激すると共に、当クラブのこの試みが意義のあるプロジェクトであった事を実感した。奉仕の素晴らしさを自分も体感させて頂き、武田会員のご好意ご尽力には感謝のほかない。



#### — 東京中央RCと東京中央新RCとの共催 —

両クラブでは、クラブ広報活動と社会奉仕活動の一環として、小学生の画廊めぐりの引率ボランティアを実施した。9月17日(木)に、例会場（帝国ホテル）に最も近い中央区立泰明小学校に、筆者の所属する東京中央RC（大橋幸雄会長）と東京中央新RC（小堀 彰会長・野呂洋子クラブ広報委員長）の会員20名が集まり、教育新聞社の後援で行われた。

銀座には200軒以上の画廊があり、校区にある銀座柳画廊や日動画廊、泰明画廊、ギャラリーためながなど16軒の画廊が協力した。地域性を活かした活動で、同校の3年生64名が4名ずつの16グループにわかれ、それぞれ2軒ずつ訪問。ロータリアンと保護者が、午前10時45分から1時間引率し、画廊の人たちからその画廊の成り立ちや展示作品の説明を聞いた。児童から「画廊の仕事は大変ですか」や、偶然にも出会えた画家に、「絵の具は何色使ったのですか」「どのように描いたのですか」など活発な質問がされた。

この試みは、学校の授業として図画工作科の美術鑑賞教育と社会科の地域見学に位置付けられ、教育的効果も高い。その中で、児童に美術鑑賞のマナーやスキルを身に付けさせ、作品を通してよさや美しさを感じとる見方を深める。さらに、児童の豊かな情操を養い、社会とのかかわりで伝統を継承し、文化を創造する基礎を作る。画家に偶然遭遇できることや、画廊という職業を通したキャリア学習にも繋がる。

この度改正された教育基本法でも第13条に、「学校、家庭及び地域社会等の相互の連携・協力」が挙げられ、地域社会の役割が大切になる。体験後、児童や保護者、先生方からのお礼があり、地域文化の創造や地域の活性化にロータリークラブの役目が大きいと感じた。ロータリアンとして学校・家庭・地域社会の連携を図りながら、次代を担う子どもたちに夢と希望と感動を与えることで、地域が活性化し日本の教育が良くなることを期待したい。

